

街なみ環境整備事業の事業計画 概要書

項目	概要
区域の概況	<p>宝山寺は生駒山の中腹に位置し、日本三大聖天の一つとして広く信仰を集める寺院である。</p> <p>大正3年の大阪・奈良間における大軌電車（現在の近畿日本鉄道）の開通と生駒停留所の設置、さらに停留所から宝山寺へ向かう参道の開設を契機として、参詣客を対象とした露店や家屋が沿道に建ち並び、市街地が形成された。</p> <p>ケーブルカーや登山自動車道の開通により発展したが、戦時中は客足が減少し、旅館が疎開者の住居として利用されるなど衰退を経験し、戦後に一時は賑わいを取り戻したものの、交通機関の発達や生活環境の変化により旅館は減少し、門前町としての性格は次第に薄れ住宅地へと変化した。</p> <p>現在は市全域が景観計画区域に指定される中で、本地区は市街地景観区域として位置付けられ、鉄道・道路網の結節点としての利便性と宝山寺参道の歴史的景観を活かしたまちづくりが進められており、宝山寺の参道沿いには、場所ごとに異なる特徴を持つ街並みが形成されており、多様で豊かな景観を楽しむことができる。この豊かな景観と参道からの見晴らしの良さは、この地区の魅力であり、未来へと受け継いでいきたい大切な景観である。</p> <p>しかしながら、近年では建築物の建て替え、道路舗装の劣化等により、かつての面影が徐々に薄れつつある。</p>
道路の現況	<p>本地区の一部の道路は、幅員4m未満であり、車両の通行や建築物の接道要件を満たしていないものがある。また、歩道を有する道路は県道237号（生駒停車場宝山寺線）と市道元町菜畑線の2箇所である。</p> <p>なお、宝山寺参道は仲之町から門前町にかけて階段部分が多くを占めており、車が通行できる箇所は限定的である。</p>
公園等の現況	<p>地区内には、門前参道公園がある。</p>
地区住民のまちづくり活動の概要	<p>令和6年度から7年度にかけて「街並みについての座談会」を4回開催し、街並みについて話し合う機会を設けた。</p> <p>毎年秋分の日、宝山寺およびその参道を主会場とした法要イベントとして、「生駒聖天お彼岸万燈会」が開催されており、市民だけでなく県外からの来訪者がある。</p>

整備の目標		<p>本市の玄関口としての景観的価値と歴史的背景を踏まえ、 参道の趣きや眺望を保全しながら、 賑わいと良好な住環境が調和する街並みを創出する</p> <p>① 参道の趣きの保全 ② にぎわいと交流の創出 ③ 山並みや街並みへの眺望の保全</p>
整備スケジュール		令和8年度より10ヵ年の期間で、地区施設整備を行う。
整備の基本的な考え方	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・街なみ環境整備事業の基本方針を踏まえ、大幅な道路拡幅は原則として行わない。 ・道路の美装化を行うとともに、安全性の向上を図る。 ・地区の活性化に向けて、市民や来訪者の回遊性を高めるための整備を行う。
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、来訪者にとって落ち着いて過ごせる空間として、既存の公園の修景等を行う。
	案内サイン等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史的背景をわかりやすく伝える案内サイン等を設置するなど、区域全体の回遊につながる仕組みを構築する。
	住宅等	<ul style="list-style-type: none"> ・景観形成基準に基づく住宅等の修景に対して補助を行うことで、街並みに調和した景観の保全・形成を推進する。